

## 鶏の *Streptococcus gallolyticus* subsp. *gallolyticus* 感染症

哺乳動物などの正常細菌叢を構成する *Streptococcus bovis* 菌群の中で没食子酸を代謝する菌種は *S. gallolyticus* と呼ばれ、さらに3亜種 (*Streptococcus gallolyticus* subsp. *gallolyticus*, *S. gallolyticus* subsp. *macedonicus*, *S. gallolyticus* subsp. *pasteureanus*) に分類されています。本菌種はヒトの心内膜炎、髄膜炎、敗血症などからの臨床分離例も報告されていますが、近年、欧州において鶏の敗血症等を起こすことが明らかになりました。2006年から我が国の食鳥処理場で、臨床的に健康な鶏の心内膜炎および肝臓・脾臓の病変部からほぼ純培養的にグラム陽性球菌が分離され、16S rRNA 遺伝子塩基配列決定と、没食子酸およびタンニン酸の代謝試験により、*Streptococcus gallolyticus* subsp. *gallolyticus* と同定されました。

### ☆ 技術の概要

鶏の *Streptococcus gallolyticus* subsp. *gallolyticus* 感染症が我が国でも発生したことが確認されたことから、今後の臨床現場での正確な菌種同定と診断手順を整理しました。

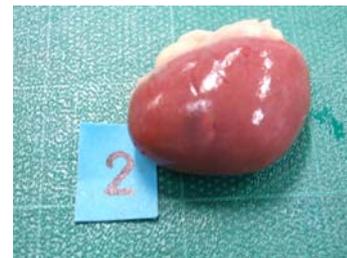
- 1) イボ状心内膜炎または肝臓・脾臓に壊死巣（下図）を呈した鶏の病変部からほぼ純培養的に $\alpha$ 溶血性レンサ球菌が分離され、市販の同定キットでは *S. bovis* と同定されます。
- 2) *S. bovis* 菌群から本菌種を区別する *sodA* 遺伝子を標的とした PCR (J. Clin. Microbiol. 42:1360-1362, 2004) により、本菌を *S. gallolyticus* と同定できます。
- 3) 没食子酸及びタンニン酸代謝試験(J. Clin. Microbiol. 42:4912-4913, 2004)により亜種を推定できます。



イボ状心内膜炎



肝臓の壊死巣



脾臓の壊死巣

### ☆ 活用面での留意点

1. 本菌はヒトの感染症からも分離されることから、新たな人獣共通感染症の原因となる可能性もあり、今後積極的に摘発を進める必要があります。
2. 欧州での発生に引き続き我が国でも発生が確認されたことは、今後世界的にも多発する可能性があり、鶏の新しい疾病として広く周知する必要があります。
3. 他の常在菌に汚染された検査材料からの菌分離には、タンニン酸含有培地が有効ですが、詳しくは動物衛生研究所情報広報課(電話 029-838-7708)までお問い合わせ下さい。

(動物衛生研究所 細菌・寄生虫病研究チーム 関崎 勉)